

古事類苑

帝王部二十一

妃

妃ハ、皇后ノ次位ニ在ル御妻ノ稱ナリ、古訓ニ、ミメト云フ、即チ御妻ノ義ナリ、又キサキト云フ、其訓后ニ同ジ、キサキトハ專ラ言ヘバ皇后ヲ指シ、汎ク言ヘバ御寢ニ侍スルコトナレバ、妃ニモ此訓ハアルナリ、日本書紀ニ據ルニ、神代ヨリ此名アレド、後世ヨリ追書セシモノナレバ、其何ノ時ニ起レルヲ知ラズ、故ニ元妃ト曰ヒ、正妃ト曰ヒ、次妃庶妃ト曰ヘルモ、汎ク其等級ヲ舉グルニ過ギズ、文武天皇ノ大寶制令ニ至リ、妃二員ヲ置キ、其品秩ヲ四品以上ト定メタリ、品ハ皇族ノ位階ナレバ、皇族ヲ以テ之ニ充テタルナリ、是ニ於テ、妃ノ制度始テ見ハル、然レドモ當時妃ト稱スルモノ甚ダ少シ、僅ニ大寶元年七月ノ紀ニ、皇太妃恐クハ元明天ラノ名アルノミ、桓武天皇ノ時ニ至リ、夫人藤原旅子ニ妃ノ號ヲ贈ル、是ヲ制令後ノ再見トス、此時皇族ヲ以テ充ツルノ制ハ既ニ壞レタリ、是ヨリ後妃ノ稱ノ史上ニ見ハル、モノ、僅ニ二三ニ過ギズ、

名稱

〔新撰字鏡〕女妃以之、以爲二反、
妃也、支佐支、

〔類聚名義抄〕女妃ニ非反、
妃キサキ、

〔名目抄〕人體妃

〔伊呂波字類抄〕比十妃比嘉偶曰妃、后妃也、